

# SNAP

## 保育日誌から

横浜  
グリーンヒル  
幼稚園

### ◆ 先生おしやれじやん

送迎の時。私がかさを片手にきどって歌を唱いながらタクトを振って先頭を歩いていたら、その姿を見て〇〇君、

「先生おしやれじやん」

なるほど「おしやれ」と「きどる」は確かに似ている。この子どもが口にした「おしやれ」ということは大人から教えこまれたことばだろうか。決してそうではない。その子どもがなんとなく感じ取ったことばのイメージを表現してみたところ「先生おしやれじやん」となったのであろう。特に横浜方言の「じやん」は「じゃなくって」の約語とも思われる。「うまい、その通りね」と照れるのも忘れてしまった。

### ◆ 色とは何か

お芋掘りの絵を描く。その絵はどこにでもよくある子どもの絵である。上の方が空色で塗られ、下の方は黒で塗られ、まんなかにはなんにも色が塗られていなかった。その子供曰く

「ここんとこは空で、ここんとこは（黒色）どろでここんとこは（空白）歩くところ」だそうである。子どもには子どもなりの構成があるのだと感心したが、いったい、絵具の色はどんな役割を果しているのかしら。

### ◆ たしかに電報ゲーム

電報ゲームをやる。私が一人の子どもに伝えた。「きのう何して遊んだの？ みんなにお話してね」一番最後の子が立ち上って発表した。

「お手洗いに行って、手を洗ってらっしゃい」

まさに牛乳を飲む時刻が迫っていたのである。子どもは時間なんて気にしていないようでも、気になる時間はあるらしい。それとも担任への手厳しい電報であったのか。

### ◆ 立ち場と言語

あんまり子どもたちが騒ぐので、子ども一人を選んで私の代りに先生をやってもらった。私は子どもたちの中に入りすまして生徒になった。ところがこの急ごしらえの生徒は、時ともしに口をはさんで文句をつける。すると私の隣りに座っていた〇子ちゃん

「ダメ、子どもはお話しちゃいけないの」

たしなめられてもこの生徒はすぐ忘れる。また思わず口を開こうと立ち上がりかかると

「ダメ、子どもはなんにもしちゃいけないの」

（以上島崎時子氏報告）

### ◆ 男と女との証明

T君「アツ、先生きょうは、ボクとおなじズボンだ」

Sちゃん「あたしもおなじよ」

T君「ちがうよ。ボクとおなじなんだよ」

Sちゃん「アラ、あたしだっておなじズボンよ、ボクね」

T君「ちがうよ、ボクのとおなじなんだよ。Sちゃんのなんか前にチャックがついてないじゃないか。先生のはボクのとおなじについてますからね」

だ」

Sちゃん「だってさ、先生は女だからさ、あたしとおなじなのよ、ねえ」

T君「ちがうよ、先生は男だぞ、いつもズボンはいてるじゃないか。頭だってボクとおなじだもん」

Sちゃん「そんだってさ、先生は女ですよーだ」

T君「ウルサイ、だまれ、男だぞー」

Sちゃん「遅いますよーだ、口紅つけてるもん」

T君「アツ、そうか：：マユ毛も茶色くぬってる、

：：そんじやー女か？」

そして数日後、壁に貼った漢字の名札を見て、T君曰く、

「Sちゃん見てごらん、やっぱり先生は女だったよ」  
「子」の字がつく名前だもん」

（村谷純子氏報告）

### ◆ 勝敗は兵家の常にあらず

幼稚園の先生同志、何の気なしに、ジャンケンで何かを取決めた。私の担任の子が、それを傍で見ていたらしい。「負けた／＼」と私が言ったとたん

「先生、もっとよく練習しておけばー 何が一番強いからー」

担任びいきが言わせた言葉にちがいないが、ジャンケンの何が一番強いのか？ 「はい」とも「そうね」とも言えず、私はしばらく絶句した。

（鈴木ノリ子氏報告）